

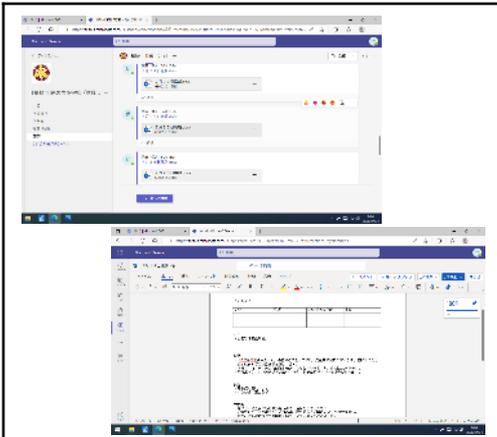
リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立南大内小学校（京都府）

【取組内容④】 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修 ～情報共有を意識～

- 週2回実施している職員朝会にクラウドを活用して情報の確実な共有に取り組んだ。
- 教員研修では「自ら学ぶ」姿を大切に放課後の研修や夏季休暇中の研修を実践することができた。それらの研修では確実な情報共有を意識して、教職員が一丸となって取り組むことができた。

(情報共有を意識した職朝)



本校ではクラウドを活用しての職員朝会を実施した。教職員全員で共有機能を活用することで、職員朝会に参加できない教職員が前もって伝達事項を入力できることが大きなメリットとなった。

また、情報の共有が確実になり、非常勤や時短の教職員にとっても大きな役割を果たすことができた。

(自ら学ぶ教員を目指して)



夏季研修では、他校の実践やリーディングDXスクールに関する情報など、それぞれが自分で選択して動画を視聴する研修を行った。【左図】

その後、分かったことや気付いたことをクラウドを使って交流したり、児童に2学期以降つきたい力、つけてほしい力について話し合ったりした。【中図】

また、月に一度、輪番制で授業力を高めるための研修を行った。担当者はクラウドや一人一台端末を活用して研修を企画し、自分の実践を広めたり、悩みを相談したりすることで互いの力を高め合う研修となった。【右図】

教職員がそれぞれインプットした情報をアウトプットし、それらをしっかりと共有することで研修して身に付けたことがより研鑽されることになった。